

# T 会員たより

Talking about you...

## 「起業」ソーシャルビジネス

浅野目建築設計事務所 浅野目 幸一  
(村山地区)



私は、まちづくりを専攻としている建築士の一人です。「良い街とはどういうものを子どもたちに伝えていくことが大切だ。建築士も建築学だけではなく、まちづくりにどうかかわっていくか考える必要がある。」一昨年、日本建築士会連合会の藤本会長が来県した際、語られた言葉です。建築士の新しい時代を発信していく考えを示されました。

しかしながら今、大都市を含めてとにかく仕事がない。県内の公共事業はピーク時に比べて65パーセント減、住宅着工状況は47年ぶりに5千戸割れ、これでは高校や大学を卒業しても職にのぞめません。私も廃業をしてからは、さすがにハローワークの斡旋依頼がなくなりホッとしているのが実情です。まずは失業者、雇用の場をどうするか、この大問題があります。藤本会長は建築士"界"の話なされたのであって、事務所協"界"の新時代を語られたのではありません。たしかに、私もそのような考えをもとに(法人の)冠を外し、まちづくり専攻を志したのであります。

さて、ここ一年程になります東根市都市再生整備計画(本町地区まちづくり交付金事業)の「まちなぎわい創造ワークショップ=WS」に携わっています。本町地区および商店街の賑わいの創出や、コミュニティ活動など地域の活性化をどう図っていくか、これまで16回の回を重ねて参りました。成果は残せたか!?残念ながらノーです。本音で語り合うのもよいが、単なるキャッチボールでは、WSの手法もよく理解せぬまま終わってしまいます。

さらに、地域交流センターなど施設整備の具体的な提案に入るとWSの手をはなれ「設計コンペ」など、きわめてお役所的な手法に移行されてしまいます。WSで語り合ったアイデアと夢が、はたして的確に反映されるのか疑問が湧くと同時に、せっかく芽が出た新たな事業に、自ら就くことができない。事業は、社会性・独自性・革新性を求められているにもかかわらずコミュニティ・ビジネスなどの社会的企業(ソーシャルビジネス=SB)が萌芽しないのであります。将来この街でどのように暮らしたいか、真剣に語り合う、そしてそれを形にするまでが「まちづくり専攻建築士」としての与えられた役割と思っています。

「産業を振興して、その地域にふさわしい新しい公共という姿を作り直していく必要がある。」と、国の成長戦略「総合特区」の目指すものとは、正にそういう趣旨のものであります。SBとして起業することは、社会貢献を目的に多くの人たちと共に、新たな生き方の提案をすることです。

まちづくりは、起業という信条のもと挑戦してまいりました。そして、自らの仕事は自ら創るべきと考えています。起業家となるべく私のライフワークは、エコ活動です。温暖化を防止するために「うちエコ診断事業」「くらしのエコアドバイザー事業」など、新たなミッションがスタートしました。どのようなSBが起こせるか楽しみです。今後も、SBやWSに関わりながら、起業活動を展開していきたいと思えます。

## あなたは左脳or右脳？

山形建設㈱ 本間 正浩  
(山形地区)



「両手を前に出して指を組んでみてください」20人ほどの設計者の集まりがあって懇親の席でこんな実験を試みた。知識の受け売りで、左親指が上になれば右脳人間、反対に右が上なら左脳人間だというわけだが、結果に驚いてしまった。右が上は全員構造系、左が上は意匠系と見事に分かれてしまった。

ふだん占いや性格判断の類は気にも留めないが、このときばかりは仰天した。

そんなわけで「脳」について少し調べてみた。ご存知のように脳は思考や行動、感情など人間が生きていく上で必要な仕組みをコントロールする司令塔だ。成人の体重の約2%が脳で、重さは1.2kg～1.6kg、約300億個ともいわれる神経細胞で構成されている。といっても体重を増やせば脳神経細胞が増えるかどうかは保証の限りではない。脳は大腦、小脳、脳幹に分かれ、さらに大腦は終脳と間脳に、脳幹は中脳、橋、延髄に分かれている。

我々が脳を有効に使うのは1割ほどだと言われているが、これはどうやら研究初期に広まった誤った思い込みのようだ。最近の研究では脳の大部分はいつも有効に働いていて、脳の一部分が機能障害を起こした場合でも他の部分が代替的に、あるいは補助的に使われるのだという。冒頭の左右の役割については、左脳が論理的思考、右脳が創造的思考を処理することが分かってきた。

左脳人間は、

- ・過去のデータを重視する
- ・物事を論理的に捉える
- ・事を計算し判断決定する
- ・スポーツでは陸上個人競技が得手

右脳人間は、

- ・過去にとらわれず先の事を考える
- ・物事を感覚で捉える
- ・感性で行動する
- ・野球やサッカーなどの球技が得手

ということになる。

今のところこのように言われているが、欲張りな自分としては「左脳右脳統合人間」になりたい。時と場合によって使い分けができる両刀使いである。もしも訓練や鍛錬によって出来ることなら・・・の願いではあるが。

しかしそれでは味のある人間がいなくなってしまうか。

やっぱり「十人十色」。さまざまいた方が面白い。

## 「建築士」と「建築師」

(株)イダ設計 村山 征彦  
(山形地区)



私は、現在も細々と、「建築士」として、建築士事務所を開設しています。  
昨今は、官公庁の公共事業もめっきり減り、民間の設備投資にも活気がなく、世界同時不況の中にあり、景気回復の将来展望も持てず、今は我慢の時と思いつつ、事務所経営はもう限界かなと建設不況を肌身にしみて実感しています。

古い話で恐縮ですが、平成17年11月、姉歯「建築師」（あえてこう呼ぶ）による構造計算の偽装問題が発覚し、国民や社会に大きな衝撃を与えました。建築設計業界、確認審査機関の根底まで揺るがし、建築基準法の改正まで発展し、結果として審査期間の長期化、提出書類の増加、審査手数料の値上げと国民に大幅な時間、経費の負担増をもたらしました。彼の行動は、身勝手にペテン師、詐欺師のやからと同様だ。同じ職能人として迷惑千万、理解できません。

私はその事件が発覚したとき、審査機関にも疑問を持ちました。構造計算書を基に、構造図面を作成し添付します。普通の審査員なら図面を見れば一目瞭然柱、梁の鉄筋量の不足など、すぐ見抜けたはずですが。又、施工者、鉄筋加工業者も、鉄筋量の少なさなど知りつつ現場施工してしまう。彼らもプロとしての自覚もなく、知らぬ存ぜぬの責任逃れ、現代病のこたなかれ主義、事の重大さを感じるのは私だけではないと思います。一連の姉歯事件の流れの中に、残念ながら本物の「建築士」（サムライ）が一人でもいたら、この事件は未然に防げたと思います。

昨今、この建設不況のもと、私たちの廻りにも社会的地位を利用し、自己の利益のためには何でもありの忌まわしい「建築師」が少なからずいると聞き及びます。

私ももう65歳決して若くもない残り少ない人生、「建築士」としての職能を全うし、いずれ不況知らずの?あの世に旅立ちたいものだ。

皆さんの周りにはいませんか、「建築師」にはくれぐれも気をつけましょう。

又、最近富に国政においても「代議師」が大勢いるように見受けられる、由々しきことです。

### 改正建築士法による

第2版を発行しました

## 重要事項説明のポイント

- 編 著 重要事項説明内容等検討会 ○体 裁 A4判 85ページ  
○発 行 (株)日本建築士事務所協会連合会 ○定 価 1,300円(税込) 会員価格1,170円(税込)  
○発 行 日 平成21年10月25日(第2版)



#### 【目次】

#### 第1章 重要事項説明とは？

- 1.1 制度創設の経緯／1.2 重要事項説明の概要／  
1.3 重要事項説明と書面の交付(法第24条の8)の関連について

#### 第2章 制度の運用に関して

- 2.1 対象となる業務契約／2.2 説明の時期／2.3 重要事項説明の時期と契約後の書面の交付の時期／  
2.4 説明の相手方／2.5 説明する建築士／2.6 書面を交付して説明／2.7 免許証を提示して説明／  
2.8 罰則等について

#### 第3章 重要事項説明書の記載方法

- 3.1 (四会推奨)重要事項説明書様式について／3.2 重要事項説明書の記載事例／  
3.3 記載に関する一般的留意事項／3.4 記載項目の逐条解説

#### 第4章 Q&A

- 4.1 制度および運用に関するQ&A／4.2 記載方法に関するQ&A／4.3 追加Q&A

資料

## 佐渡国際トライアスロン大会

ブレン総合設計㈱ 仲川 昌夫  
(鶴岡地区)



私は今年、趣味にしているトライアスロンで佐渡国際トライアスロン大会に初めて出場しました。トライアスロンは12年前から酒田おしんレース、温海鼠ヶ関大会、村上大会に参加してきましたが、これらの大会はオリンピックディスタンスで水泳1.5km、自転車40km、ランニング10kmですが、佐渡は距離が長いロングディスタンスで水泳3.8km、自転車190キロ、ランニング42.2キロ、自転車は鶴岡、仙台間（150km）より長いのです。なぜ大会に参加しようと思ったのかは、運動で一番過酷な競技と言われる大会に前から参加してみたいと思っていたからです。マラソンは、東京マラソンなど数回は出場していましたが、佐渡大会の総距離236kmは日々の練習が大事であり、勢いで参加できるものではないので参加できずにいました。今年初め仕事の中心を東京に移すのをきっかけに練習ができる環境ができたので大会出場を決めました。鶴岡に居るときはその他の趣味、園芸（200坪の畑60坪のビニールハウスでの花栽培）、釣り、その他が忙しくそれなりの練習しか出来ませんでした。住まいが本郷三丁目のマンションになったので朝4時位から皇居、神宮外苑、六本木、早稲田、隅田川、荒川など毎日違うコースを2、3時間、都内を走っていました。ある日、5時30分ころ早稲田周辺を走っていたら早稲田大学の佐藤滋先生に会ったことがありました。今年には佐渡大会出場の練習のため笹川流れ大会21.1km、千葉ウルトラマラソン60km、東根さくらんぼマラソン21.1km、酒田おしんレース、温海鼠ヶ関大会に出場しました。長距離練習では東京・熊谷往復、自転車200km、鶴岡・湯沢往復自転車240km、鶴岡・吹浦ランニング45kmをこなし準備をしてきました。

佐渡大会は60歳までにロングディスタンスを完走しないと60歳以降出場できない規則なので、今年私が58歳なので何とか完走したいと思っていました。また参加資格が厳格なため私の大会実績で出場できるか心配でした。大会には来年参加を目指しボランティア参加の高校同級生の大川君と2人で2日前に佐渡入りしコースの下見をし、初めのでレースで、ペース配分、エネルギー補給も分からず不安ながら大会参加しました。大会当日9月5日は暑い日でした朝2時30分起床、大会会場入り3時30分、スイムスタート6時でした。スイムのタイムは良くないが気持ちよく完泳、タイム1時間38分、自転車は上り坂も多く歩いている人よりも遅くても自転車をこぎつづけ完走、タイム7時間42分、ラン開始時、制限時間まで6時間あり完走ができると確信、しかし最後のランは辛いものでした、スタート時は熱くて大変でしたが6時ころからは涼しくなり最後は真っ暗、最後10kmくらいのところで話した人は「こんな辛いのに今年でやめようと思うのに毎年走っているんだよね」と言っていました。タイム5時間44分、ゴールは午後9時5分、総時間15時間5分で大会は終わりました。出場者764人、完走者590人、完走率77.2%順位499位。来年も参加したいと考えています、できれば70歳まで。